

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



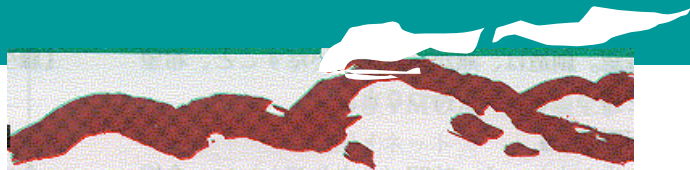
那須ワイズメンズク

2022~2023年度 No.276

12月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ IV



強調月間：キリスト教理解
IBC
祈りの輪（8日）

今月の聖句

あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリストイエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、私は確信します。 フィリピ1：6

12月第1例会（パイプオルガンによる讃美礼拝）

日時：12月10日（土）午後6時～

場所：日本基督教団 西那須野教会

栃木県那須塩原市太夫塚1-232-438

内容：パイプオルガンによる讃美礼拝・部長公式訪問

養徳園・ユースリーダーを招待して

司会：田村 修也副会長

開会点鐘

会長 河野 順子

聖書朗読・祈禱

司会者

ワイズソング斉唱

一同

会長挨拶・ゲスト紹介

会長 河野 順子

部長挨拶

北東部長 大久保 知宏

第1部

キャンドルサービス

司会 藤生 強

前奏（灯火入場）

奏楽 木村 真喜子姉

招詞 イザヤ書第60章1～3節

讃美歌 106（あら野のはてに）

一同

聖書

メッセージと祈り 西那須野教会 牧師 播 炯旭牧師

讃美歌 112（もろびとこぞりて）

一同

後奏

第2部

クリスマス献金の贈呈

河野 順子会長

養徳園・アジア学院・那須聖園老人ホーム(タオル等の贈呈を含む)

ユースリーダーへの聖書贈呈

ギデオン協会

パイプオルガンの演奏

木村 真喜子姉

讃美歌 109（きよしこのよる）

一同

閉会挨拶・点鐘

会長 河野 順子

メンバー・メネット

会費：1000円

2022~2023年度 主題

国際会長：(IP) K・C・サミュエル(インド)

「フェロシップとインパクトで次の100年」

アジア太平洋地域会長：(AP) チェン・チ・ミン(台湾)

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事：(RD) 佐藤 重良(甲府21)

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

北東部長：大久保 知宏(宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

11月例会データ（出席率：85.7%）

在籍者 7名

出席者 5名 メイキャップ 1名

メネット 3名 ゲスト 1名

12月 Happy Birthday

12/30 張 蔚麗ウィメン

・1月第2例会（役員会）

日時：12月16日（金）午後4時から

場所：田村副会長宅・ZOOM

・1月第1例会（新年例会）

日時：1月14日（土）午後4時～

場所：原田晴子さん宅（塩谷町田所）

巻 頭 言

平山 雄大

【主事養成研修ステップⅡを終えて】

9月29日から12月2日まで日本YMCA同盟主催の主事養成研修ステップⅡに参加してきました。初めてこのように那須YMCAからもとちぎYMCAからも離れたことが無く現場などに不安もありましたが仲間の協力もあり無事、研修を終えることができました。

この研修では前半にYMCAの歴史やキリスト教について、中盤はYMCAの運営や運動について学び、後半はこれまでの学びを活かし自分のテーマに沿った論文を書きながら自身と向き合うというような研修でした。

前半の歴史やキリスト教の学びの時間では今日までYMCAが残ってきた理由や先人たちの歩みや思いについてこれまでの業務のなかでは学べないことについて深く考えることができた。キリスト教の学びではYMCAが大切にしている根底の部分にキリストが説かれた愛と奉仕の精神があり、これを忘れてはならずこの部分が弱ければYMCAと果たして呼べるのかこの精神を今のとちぎYMCAで体現することができるのか自身に問いかける機会となりました。

中盤ではYMCAを運営していく中で「経営」という観点と「社会課題への解決（YMCA運動）」の両輪を回すために主事として必要ような目線や考え方、決断などこれまで触れる機会が少なかった部分についてじっくりと考える時間となりました。

後半ではこれまでのステップⅡの学びと自らの想いの集大成である修了論文の作成を行いました。論文の作成では読書や他のYMCAの訪問など自らの学びの時間とし、とちぎYMCAで向き合わなければならない社会課題への解決の方法について悩み、考える時間となりました。この研修で得たものは知識だけでなく、先人たちの想い、全国の仲間を得ることができました。全国の仲間とつながることで共に社会課題へ向き合い、考え、解決への助けとなってくれます。このステップⅡで得た、学びと仲間を大切にこれまで以上にとちぎYMCAですべき社会課題解決に向けて力を尽くしたいと思います。



11月例会 於；田村副会長宅 2022.11.23

11月第1例会報告

日時：11月23日（祝・水）午後2時～

場所：田村修也副会長宅

出席者：河野、田村、村田、張、藤生の各メンバー、
田村、藤生、村田メネット、ゲスト：原田、9名

11月例会は「日本文化を知ろう」をテーマに『茶道』体験を行う予定でしたが、講師の体調不良のため急きょ取り止めとなり、内容を『報告と協議（12月役員会も兼ね）そして歓談』、会場も『田村メネット』へ変更して行いました。

当日は朝から強い雨が降っており肌寒い日でしたが、例会会場としてお借りした田村メネットリビングには薪ストーブが焚かれ、心地よいやさしい暖かさに包まれながら例会は始まりました。

初めに河野会長が出席した「北東部評議会」の報告がなされました。各種報告の後、12月3日開催の「ZOOMにて開催の北東部大会」の内容確認も行いました。北東部大会へは河野会長が参加することとなり、他のメンバーは同時刻に行われる「故原田メネット一周年記念会（偲ぶ会）」へ出席することとなりました。

次に12月例会は、12月10日開催に「12月クリスマス例会」について、例年通り「西那須野教会礼拝堂」を会場に、「牧師によるクリスマスメッセージ」と「パイプオルガンの調べ」を主として行うことが確認されました。また新型コロナ新規感染状況によって変更の可能性はありますが、「養徳園」の子供達と先生、「那須聖園老人ホーム」の方、「アジア学院」の方を招待することとしました。部長の公式訪問。

次に「11月新年例会」について話し合われました。内容は恒例である「新年の抱負を語る」に、日程は1月14日（土）午後に決まりました。尚、那須YMCAボランティアリーダーも招待して賑やかにと考えましたが、『テスト』時期のため参加出来るリーダーのみ招待としました。会場は原田さんから申し出があり、故原田メネットにて行うこととなりました。一通りの報告・協議を終えた後、メネットが準備した「プチ茶道体験（作法は気にせず、自分が飲むお茶を点てる）」を行い、お茶と茶菓子を頂きながら、「楽しい歓談（EMCについて）」のひと時を持ちました。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第115回）

田村修也

日本では古来、特に江戸時代の1700年頃から、明治初期の1870年頃まで、2～3年おきに繰り返

返し「飢饉」に襲われてきました。特に、1830年代の天明・天保の飢饉は「大飢饉」と言われ、7年間も凶作で「飢饉」が続きました。1833年の天保3年には、7年続く大飢饉が始まり、東北・奥羽地方では「収穫ゼロの村」や「全村飢饉」の村が出始め、天保7年1836年には雨が降り続き、大凶作・大飢饉が頂点に達しました。陸奥の国、今の岩手県では18ヶ村5万9千人全員が餓死し、仙台藩では道端に餓死者が転がり、栃木県の北東側に隣接する福島県表郷村では、餓死者を埋葬する大きな穴が、幾つも掘られたと記録に残っています。1846年には、那須山も噴火しています。今から170年前のことです。また1881年（明治14年）8月にも那須山は噴火しています。

江戸時代末期の偉大な農村指導者である二宮尊徳は、これらの危機克服のためのマニュアルとして「報徳仕法」を作成して、全国的に弟子を養成して、農村再建と窮民救済のために力を尽しました。二宮尊徳は、農村の豊かさを食料の備蓄量で示して「8年をもって豊かとなす」と指導しました。それだけの食糧の備蓄がないと、安心して生きてゆくことが出来なかったからです。

印南文作さんも矢板 武さんも、鍋島幹さんも南一郎平さんも皆、この飢饉の悲惨さを身をもって体験された方々でした。ですから、指導者として目の前に広がる「那須野が原」を「水田」にするという開拓事業のためには、全身全霊、いのちをかけて取り組まざるを得なかったのです。私は犬養道子著の「人間の大地」を読んでから、今まで見てきた土地の見方が変えられてしまいました。これだけの土地が農地になれば、何人の人たちが生きていけるのだろうかと考えるようになりました。

指導者の中心となった印南文作さんは、世界遺産の日光東照宮の絵師の家に生まれ、12歳で絵師を継がないで、家を出て、日光山内の寺院に奉公して、寺領の農民たちから年貢の取り立てなどの仕事を通して、当時の農民の塗炭の苦しみと農村の荒廃を、身をもって体験してきました。その後、印南さんは、現在の大田原市佐久山の印南家の養子になりました。那須地域の総名主の要職に就いて、日本の歴史的な主要街道である奥州街道佐久山宿で旅館を経営していました。明治維新の戦いに際しては、政府軍の密偵たちを支援し、佐久山城主を動かして、いち早く新政府軍を支援し、功績をあげて明治新政府の要人に広い人脈を作り上げました。佐久山宿は箒川の河岸段丘の上にありますので、印南さんは、毎朝起きて戸を開けると、那須野が原を一望することが出来

ました。印南さんは農村指導者として大きな働きをしていましたから、それを見るにつけ、この原野が開拓出来れば、どれだけの多くの人々が飢えから救われ、地域が繁栄し、国を豊かにすることが出来るのにと、日夜思いを募らせていました。(皆さんの国には、そうした原野はありませんか?)。

同様に、矢板 武さんも、若くして塩谷地域の総名主でした。豊かな財力と才覚とをもって幅広い事業に取り組んでいる財界人で、日本鉄道株式会社の理事でもありました。矢板さんは公用で大田原宿に行く時には、この那須野が原の南側周辺を廻って行かなければなりませんでした。その度に、印南さんと同じように、この地を開拓して、開拓民を入植させれば、どんなに多くの小作人が自分の土地を持つことが出来、地域を豊かにすることが出来るだろう。水がないために放置されているので、水を得ることさえ出来れば、やがて美田が出来、集落も出来るだろう。何とかして水を得たい、この原野を開拓したいという思いを心に募らせていました。両人は、立场上公務で度々出会う機会があったので、那須野が原開拓の夢を熱く語り合っていました。

日本語の「心」という言葉の語源は、心の思いが、徐々に募って行って凝り固まってゆき、コリコリがココリになり、やがてココロになっていったそうです。ミルクからチーズを作るようですね。それ程までに二人の思いは、農村地域の指導者、責任者として、深く固く、どうしても達成せずにはおられない決意にまで、高められていったのです。

(以下次号へ続く)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

子どもの成長にとって意味ある出会いが大切と言われています。この出会いは、人だけではなく、出来事も含みます。

更生保護女性会が、地域親として本園の子ども達に関わって18年を迎え、先月から子ども達との昼食会が再開したところです。年長組のあるクラスで、更生保護女性の会の方が、同じテーブルにいたAちゃんを見て、「Aちゃんは小さいのね」と言ったところ、子ども達がすぐさま、「Aちゃんは、小さくないよ、私たちと一緒に、同じ6歳だよ」と応え、「そうなんだ。6歳なんだね」と更生保護女性の会の方も応えたというエピソードを聞きました。

私は、このやりとりを意味のある出来事だったとうれしく思いました。大人からの大小という見方の問いに、子ども達は、別次元の同じ6歳児という人格という価値観で応えています。この年長組の子ども達の物の見方に素晴らしい成長を感じます。

その話を聞いてひとりの卒園生からの手紙を思い出しました。以前にも紹介しましたが、大切なので再掲載します。

「先日お邪魔させて頂きました卒園生のIです。

今は東京に住んでいる私も当年30歳になりました。私は10~20代の間、イジメから精神を病み、身体中に自傷(じしょう)の傷跡が沢山残っています。しかし、今は薬も飲まず、病院も行かず、会社員として働いています。

ここまで私が立ち直れたのは、西那須野幼稚園が日々の感謝のお祈り、聖書からのエピソードを交えながらキリスト教としての観点より、むしろ人としての観点から“人を羨やまず憎まず、人を許し、人に感謝をして生きてゆく”そんな精神的なバックボーンを、幼い私の中に与えてくれたからです。これが無かったら、私はきっと相手を憎み自分の改善すべき部分、イジメられる要因になる部分から目を逸らし自分を変えようとはせず「何で私だけ?」「どうして解ってくれないの?」と人に優しさや理解を求めるだけの人間になってしまっていたと思います。神様にすがって祈るのではなく、感謝の祈りを捧(さ)げ、自分自身で歩いてゆく、その力を、私はこの幼稚園で学びました。

人を憎み羨み、自分への理解を求める生き方は楽だと思えます。人は決して善意だけの生き物ではありませんから。

山あり谷あり、これからもそうでしょう、けれども人を羨んだり憎んだりする、自分中心の人生よりも誰かに求めるだけじゃなく、多少なりとも与える事が出来る方が今の私には、ずっと価値のある人生に思えるのです。

子どもを取り巻く環境は、年々厳しくなる一方です。園児達にも、やがて困難な時が訪れるかもしれません。その時、この幼稚園で教わった人としての観点に立ち戻れたら誰もが自分で道を切り開いて生きてゆけるとそう信じています。

先代の園長先生、副園長先生、担任だったサイトウエミコ先生に心から感謝しています。光夫先生、そして教師の皆様、どうぞこれからも頑張ってください(原文のまま)

彼女はコールセンターに勤めています。「おまえ殺してやる」というような電話も受けることが、

時々あるそうですが、「もう大丈夫」と笑顔で言っていました。また、認知症と思われる人から同じ質問が何度もありますが、上司から丁寧すぎると言われるくらい大切に応答しているそうです。

正解のない時代、そこで必要なことは、彼女のよう、折れない心(レジリエンス)、自己統制力(意志・感情・行動をコントロールできる力)、協働的問題解決力(粘り強さ、協力をしながら問題を解決する力)です。より良く生きられる地球市民としての基礎が培われる、この幼児期を大切にしていきましょう。

アジア学院たより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

赦し、赦される「和解」の時 ①

アジア学院では10月に恵子ホームズさんという女性をお迎えして、「私の和解の旅路」と題した講演をしていただきました。その時に起きたことを書きたいと思っておりますが、とても1回で書き入れる内容ではないので、2～3回に分けて書かせていただきます。

恵子ホームズさんは三重県熊野町出身のイギリス在住の日本人です。日本でイギリス人のご主人と出会い結婚され、しばらくしてイギリスに移られ、それ以来ずっとイギリスにお住まいです。年齢はおそらく60歳代だと思います。恵子さんのご主人は、ご家族がイギリスに移られわずか5年後に飛行機事故で亡くなられています。その後恵子さんはイギリスに残ったまま、おひとりで二人のお子さんを育てられました。ご主人を亡くされて間もなく、悲しみに暮れていた1988年、恵子さんは故郷に里帰りした際に、何もない山の中で思いがけなく第二次世界大戦中、東南アジアで日本軍の捕虜となって熊野の入鹿村の鉢山に連行された英国兵300人のうち、亡くなった若い16人の兵士たちの墓石と記念碑と一緒にあって整備されている場所を見つけました。それは当時勤労少年として銅鉢山に動員されていた村人の中学生たちのうち、捕虜たちと交流のあった何人かが作ったものでした。彼らはその墓地と記念碑を長年手入れし、元捕虜の衛兵たちを覚えていたのでした。それをたまたま見つけた恵子さんは、それから予想もしなかったような和解のための新しい旅路に出発することになります。

以前に神様に「恵子はわたしと一緒に働くんだよ」という声を聞いたという恵子さんは、その声をその

時に再び思い出し、イギリスに戻ると、まず16人の英兵の捕虜たちのお母様たちを探し訪ね、謝罪をし、日本人が彼女たちの息子さんのお墓を守っていることを伝えます。その後、今後は生存している元英兵捕虜たちも探し訪ね、「日本人なんか顔も見たくない！出ていけ！」などとひどい言葉を浴びせられながらも根気よく面会を続けます。そしてついに26人の元捕虜たちを日本にお連れすることを実現するのです。故郷の熊野町の墓石と記念碑の前で、帰還できなかった英兵たちのために行われた追悼式に参加してもらうためです。以下は恵子さんの言葉です。

「追悼式の後で、元捕虜だった人たちが明るく言いました。「もう憎しみはないよ。「すっかり赦したから、安心して墓場に行けるんだ」、「今では日本人に愛さえ感じているよ」などなど。英国に帰ったおじいちゃんたちは、「恵子達のしていることは素晴らしい。まだまだ多くの仲間達が日本人への恨みで苦しんでいる。この働きはやめないで続けてほしい。」奥さん達は、「主人が変わりました。家庭が変わりました。やめないで続けてください。」このように言われました。」

その後も恵子さんはこの活動を続け、34年で520人以上の元捕虜や彼らの家族、慰安婦の方、一般市民で東南アジアの収容所に入れられていた方々を日本にお連れします。「日本の方々と、また日本兵だった方々と、元捕虜の方々と、謝罪と赦しがあり、あちこちで和解の花が咲きました。謝って赦される日本兵たち、快く赦す人たち、お互いに解放されてゆき、車椅子が要らなくなった人たちも数人います。かつての日本兵たちも、新しい喜びの人生が与えられました。」

この感動的な話を聞いたあと、アジア学院の会場で不思議なことが起こりました。この続きはまた次の回で書かせていただきます。

聖園那須老人ホームたより

社会福祉法人 イースタービレッジ

那須聖園老人ホーム

施設長 薄井 高宏

厳しい寒さの足音が日ごとに近づいて参りました今日この頃、皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。

そろそろ私の家では、毎年恒例のサンタさんへのプレゼントをねだる手紙の作成が最盛期を迎え、沢山欲しいものがありどれにしたらいいか迷う子、欲

しいものが高価でどう説得するか頭を悩ます子、毎日欲しいものが変わり翻弄する子、特にないから現金がいいと言う子等、それぞれの個性が光り、成長も見る事ができて面白いものです。

先日、建替え施設の設備・備品の入札が行われ、建替えもいよいよ大詰めを迎えています。建物自体も今日現在では、半分の外壁の一階、二階、屋根が完成し、内装に取り掛かっています。残り半分は、一階部分が終わり、二階部分に取り掛かっているところです。あっという間に目に見える形が出来上がる様は、圧巻の一言です。

新しい施設に建替わるにあたり、聖園那須老人ホームでは、新しく個人契約入所を開始したいと思います。この制度は、地域にお困りの方々に住宅を供給する観点からのサービスで、措置入所で必要な条件や入所判定委員会の意見、市町の決定がなくても施設と入所を希望する方との契約で入所できるサービスです。契約にもいくつか条件や料金の違い、サービスにも違いがありますので、ご興味のある方は、下記連絡先までお問い合わせください。

また、新築にあたり、ご寄付も募っておりますので併せてご連絡ください。

来年も皆様にとって実り多き一年となります様、お祈り申し上げます。

タオル寄付のお願い

聖園那須老人ホームでは、入所者の方々が生活する中で、様々な場面で使い切りの布（タオル）を使用しています。つきましては、皆様には、タオルの寄付をこれまで同様お願いできれば幸いです。

- ・新品、未使用、使用後は問いません。
- ・ハンドタオル、フェイスタオル、バスタオル、タオルケット等大きさも問いません。
- ・御年賀やご挨拶で頂いた物、未開封、開封後等問いません。
- ・切断や洗濯、消毒はこちらで行います。
- ・まとまった数が集まる場合は（距離によってですが）、お引き取りに伺います。

YMCAだより

【全国リーダー研修会の感想】

那須YMCA、とちぎYMCAの代表として全国リーダー研修会に参加させていただきました。熊本に着くまではとちぎYMCAにはたくさんのリーダーがいる中で全国リーダー研修会に行かせていただき、ありがたい気持ちと成長しないと、という気持ちでとても緊張していました。

いざ、全国リーダー研修会となると新しいリーダーと出会い、たくさんの情報や気づきを得られました。特に子どもが本当に大好きで子ども達のことを一生懸命に考えているリーダーばかりで、自分にとってすごく刺激を受ける環境でした。活動では子ども達に対してこの活動で何をしてあげられるのか、そしてそのためにはどうすればいいのかをより一層考えるようになりました。



リーダーとしてのターニングポイントになったと思います。今後、この全国リーダー研修会で学んだことを那須YMCAや、とちぎYMCAに還元していこうと思います。

【子どもの貧困撃退♡ チャリティ サンタ de クリーン&ウォーク】

毎年恒例の県内NPOで協働して開催する子どもの貧困撃退チャリティーイベントを今年は「サンタ de クリーン&ウォーク」として開催します。7人に1人の子どもたちが貧困の状態にあると言われます。友だちや仲間に「子どもの貧困」を伝えて、サンタに街をキレイにします。重要なのは「伝える」ことです。子どもの貧困をなくす「仲間」をたくさんつくりましょう！

とちぎYMCAも益金の寄付先団体として、本イベントに参加します。また、YMCAのユースが、実行委員会に加わり、社会課題解決のためのアクションを行っています。

【日時】2021年12月18日（日）11：00～15：00

【場所】オリオンスクエア・宇都宮市中心部

【参加方法】QRコードからお申し込みいただけます

① サンタで参加～目立って、多くの人に知ってもらいましょう

*参加には、参加費+寄付金が必要です。

② ボランティアで参加～みんなでイベントを盛り上げよう！！

③ 寄付で参加～「寄付」も参加方法の一つです。

【問合せ先】とちぎコミュニティ基金 サンタ de ラン実行委員会

※昨年、高校生ボランティアグループ「つぼみ」が他団体NPOと協働して、子どもの貧困について考える動画を作成しました。

ぜひご覧ください！



サンタになって、
子どもの貧困をなくそう。



【とちぎYMCA・那須YMCAの12月の予定】

- ・12/2(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園
(クリスマス飾り作り)
- ・12/5(月)～7(水) 北関東スキーディレクター・スタッフトレーニング (菅原が参加)
- ・12/11(土) 北関東スキーリーダーートレーニング (濱塚・菅原・リーダーが参加)
- ・12/17(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園
(クリスマス飾り作り)
- ・12/17(土)・18(日) とちぎYMCAスキーリーダーートレーニング (平山・濱塚・菅原・リーダーが参加)
- ・12/18(日) サンタ de ラン2022@宇都宮
- ・12/28(水) ワンデイスキー①ウィンタープログラム開始

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

今月は休みます